

特集：2011年度日本数学会出版賞受賞者のことば

佐藤雅彦＋ユーフラテス編集・執筆

「日常にひそむ数理曲線 DVD・Book」

数理を露見させよう——そう強く思ったのは、6年前、とある科学館で「時間の積層」という名のワークショップを高校生向けに行った時でした。そのワークショップに参加したグループの内、二つの班には、写真A（ビルの上から真下に向かって黒い棒を自然落下させている）と写真



B, B'（棒の先を円運動させている）のように、連続した動きを撮影し、それを時間系列にプリントアウトしたものを重ねさせました。すると、その重ねた束の断面に「ある数理的な曲線」が現れたのです。

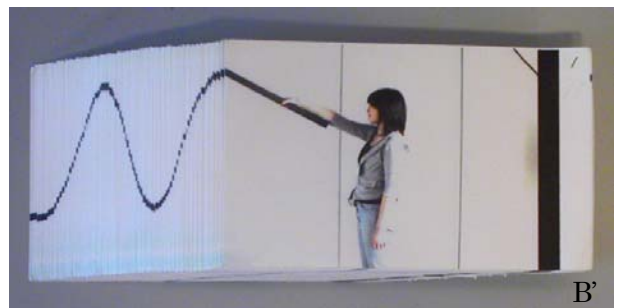
参加したどの高校生もその曲線が現れた瞬間、息をのみました。わいわいがやがやと作業をそれまでやっていたのに、その瞬間、声が止まったのです。我々がいるこの世界の摂理がベールを脱ぎ、見てはいけなようなむき出しの

美しさが、あられもなくその姿を現したかのようでした。

「数学なんて生きていく上で関係ない」「サインも二次曲線も高校で習って以来、出会ったことがない」——よく言われる数学嫌いの言葉です。確かに、現実的には真実なのでしょう。でも、そんな人たちにも、高校生たちが息をのんで見守ったあの曲線を、そして我々のいるこの日常に潜んでいる数理を、見てほしい知ってほしいと思ったのです。



今回、日本数学会出版賞を受賞した「日常に潜む数理曲線」がどのくらい理数離れに一矢を報いることができるかは分かりません。でも、あの見てはいけないと感じさせるくらいの潜み方をしている曲線を見て、自分たちのいる日常ってかなり凄いだなって感じてくれる人がひとりでも増えたら、こんな嬉しいことはありません。その意味でこの受賞はとても意義のあるものになると考えています。



一緒に大変な思いをして、毎週毎週企画と制作をした慶應義塾大学佐藤雅彦研究室の学生たち、ベネッセ教育研究センターの皆さん、小学館の方々、ユーフラテスのチームを代表して、感謝の

意をあらわしたいと思います。

そして、とても光栄に感じていることもお伝えしたいと思います。ありがとうございました。

東京芸術大学 大学院映像研究科教授 佐藤雅彦